

今週（7月4日から7月8日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、4日の法人税・年金保険料揚げの影響や、積み着地に向けての調整の調達が入ったことから、ビッドがやや強めの地合いとなった。

当座預金残高が300兆円を超えて推移する中、無担保コールO/N物は週を通して▲0.06～▲0.04%の出合いが中心となり、無担保コールO/N加重平均レートは概ね▲0.05%台半ばで推移した。ターム物に関しては、証券業態のロール案件での出合いの他、1W～2W物で▲0.05～▲0.04%の出合いが見られた。

固定金利方式の共通担保資金供給オペに関しては、6日に3M・15,000億円、7日に2W・8,000億円がオファーされた。6日オファー分は、落札額50億円(期落ち額550億円)、7日オファー分は落札額2,690億円(期落ち額4,130億円)と全て札割れとなった。6日に実施された米ドル資金供給オペは応札額2億2,000万ドルと、四半期末要因が剥落したためか、前回に比べて減少した。

●レボ市場

今週のGC O/N物は、概ね▲0.095～▲0.05%程度の水準で推移した。4日～6日までのS/Nは▲0.095～▲0.085%程度のレンジでの出合い。7日のS/N(7/11-7/12)は、短国の発行要因から▲0.06～▲0.05%程度までレートを切り上げた。8日のS/N(7/12-7/13)は、短国・利国の買入オペが通知された影響でレートが低下し、▲0.08～▲0.075%での出合いとなった。

SC個別銘柄では、10年336～342、20年152～157、30年48～51、40年9回債などカレント近辺の銘柄にビッドの入りが多く見られた。特に、5年128回債および40年9回債は週を通じて品薄感が強かった。

●短国市場

今週の短国市場は、先月のEU離脱・残留を問う英国民投票の結果を受け、債券市場全体で相場が強含む中、2本の入札が行われた。両入札とも海外の需要が強かったためか、WI取引での強めの出合いや買い気配に引っ張られる格好となり、共に過去最低レートを更新する強い入札となった。その一方で、マイナス水準が深くなっていることもあり、入札後のセカンダリーマーケットでは動意に乏しい、流動性の低い状態が続いていた。

短国の入札は6日に6M物、7日に3M物が行われた。6M物の入札は、WI取引で▲0.35%の出合いが見られる中、平均落札利回▲0.3939%、按分落札利回▲0.3722%と、平均・按分共に過去最低レートを更新する強い入札となった。セカンダリーは▲0.50%と▲0.45%で小額の出合いが見られた程度と小動きだった。3M物の入札はWI取引で▲0.33～▲0.325%の出合いが見られるなど過熱感が強い中、平均落札利回▲0.3234%、按分落札利回▲0.3032%と3M物では平均・按分共に過去最低レートを更新する強い入札となった。セカンダリーは引け際に▲0.305%と▲0.299%で少額の出合いが見られた程度とこちらも小動きに終わった。

8日は短国買入オペが前回比10,000億円増額の30,000億円でオファーされた。平均利回較差+0.026%、按分利回較差+0.019%と最近の流動性の低いマーケットを反映し、小甘い結果となった。

●CP市場

今週のCP市場は、四半期末で13兆円台に減少した発行残高が14兆円台まで回復したものの、その後はほぼ横ばいで推移しており、発行市場は若干盛り上がり欠けていた。週間償還総額5,700億円程度に対し、ノンバンク、鉄鋼、機械、商社業態から大型発行案件が見られたものの、発行総額は6,000億円程度であった。発行レートは、a-1格相当銘柄では依然として0%を中心としているものの、発行残高が膨らんでいる銘柄では小幅に上昇する動きも見られた。

7日はCP等買入オペが前回比1,500億円減額の3,500億円でオファーされた。結果は平均落札利回0.000%、按分落札利回▲0.001%となるなど、ABCP等の売却ニーズが強い銘柄が含まれていたこともあってか、前回（平均▲0.001%、按分▲0.002%）から更に上昇した。

●短期金融市場関連指標

	日経平均（円）	新発10年物 国債利回り（%）	為替 （ドル/円中心相場）	無担保コールO/N （加重平均・%）	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%）	日銀当座預金残高 （億円）
7/4（月）	15,775.80	△ 0.255	102.63	△ 0.057	△ 0.090	3,007,700
7/5（火）	15,669.33	△ 0.255	102.17	△ 0.054	△ 0.088	3,050,200
7/6（水）	15,378.99	△ 0.275	100.90	△ 0.056	△ 0.087	3,053,800
7/7（木）	15,276.24	△ 0.280	100.95	△ 0.055	△ 0.077	3,033,000
7/8（金）	15,106.98	△ 0.290	100.90	△ 0.053	△ 0.053	3,049,100

来週（7月11日から7月15日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
7/11 (月)	5月の機械受注統計(内閣府 8:50) 6月のマネースtock(日銀 8:50) 5月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)				6月のFRB 労働市場情勢指数
7/12 (火)	6月の企業物価指数(日銀 8:50) 5月の第3次産業活動指数(経済産業省 13:30)	30Y 8,000億円 7/14発行			5月の米卸売売上高
7/13 (水)	5月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)	交付税借入 10,500億円 7/22借入			米ページブック 6月の米財政収支
7/14 (木)		TB3M 44,000億円 7/19発行	5Y 24,000億円 7/19発行		英中銀MPC結果発表 6月の米生産者物価指数
7/15 (金)	5月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 25,000億円 7/20発行			5月の米企業在庫 6月の米消費者物価指数 6月の米小売売上高 6月の米鉱工業生産・設備稼働率 7月のミシガン大消費者信頼感指数速報 6月のユーロ圏消費者物価指数改定値

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
7/11 (月)	1,100	▲ 60,300	▲ 59,200	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 4,100 ▲ 600 200	2,700 100	▲ 1,700	▲ 60,900	TB3M発行▲44000償還23700 TB6M発行▲35000償還4300 流動性供給▲2000
7/12 (火)	0	▲ 2,000	▲ 2,000	短国買入 国債買入 CP買入		30,000 11,400 3,500	44,900	42,900	
7/13 (水)	0	▲ 17,000	▲ 17,000				0	▲ 17,000	源泉所得税（賞与分） 労働保険 社会保障費
7/14 (木)	▲ 1,000	▲ 8,000	▲ 9,000				0	▲ 9,000	30Y発行▲8000
7/15 (金)	▲ 2,000	▲ 11,000	▲ 13,000				0	▲ 13,000	2Y発行▲23000償還6600 交付税借入▲10500期日10500 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲3100 個人向け3Y・5Y・10Y償還5500
週 間 合 計	▲ 1,900	▲ 98,300	▲ 100,200	—	▲ 4,500	47,700	43,200	▲ 57,000	

7/11は日銀予想、7/12以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、夏季賞与に伴う大幅源泉税揚げや国債の発行要因等で、資金需給は不足地合いとなるが見込まれる。また、積みの最終週の取引となるため、調整の調達が入ることが予想され、無担保コールO/N加重平均レートは若干上昇すると考えられる。短国市場は14日に3M物、15日に1Y物の入札が実施予定となっている。短国買入オペが高水準でオファーされると予想される中、相場動向が注目される。CP市場は特段大きなイベントはないものの、CP等買入オペのレートが上昇を続けており、発行の増加が見られればレート上昇の可能性も考えられる。

主要なイベントとしては14日のMPC結果発表、15日の6月の米CPIなどが挙げられる。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入